

精度管理調査に関するアンケート

精度管理事業部事務局員：杉山 大輔
(安城更生病院 TEL:0566-75-2111)

I. はじめに

本年度の精度管理調査は日本臨床衛生検査技師会精度管理事業・データ標準化事業システム(JAMTQC)を利用し、昨年度と同時期に同様の内容で実施した。

また、精度管理調査と同時にアンケート調査を実施し、参加施設から貴重なご意見を頂いた。次年度以降の精度管理事業展開へ反映させるべく、以下にその集計結果を示す。

なお、ご意見・ご要望等にて重複した内容については割愛させて頂いた。

II. 対象項目

JAMTQC内にてアンケート設問を設定し、回答を求めた。

【アンケート内容】

1. 技師長クラス対象

本精度管理調査の参加費の妥当性、日臨技精度保証施設認証制度、総括統計表、JAMTQC、事業全般に対する意見や要望を調査した。

2. サンプルサーベイ部門

項目数、試料の量に関する調査を行った(2題)。

3. フォトサーベイ部門

設問量、難易度、設問内容に関する調査を行った(3題)。

4. 評価対象外設問を出題した部門

設問量、難易度、設問内容、評価対象外設問の必要性に関する調査を行った(4題)。

III. JAMTQCシステムについて

使用方法、操作性について昨年と比較した感想についての調査を行った(3題)。

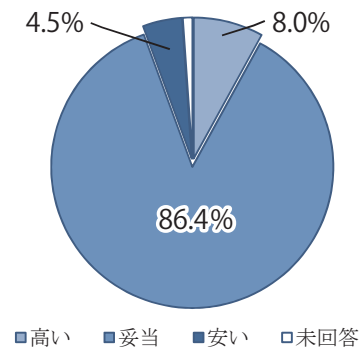
対象施設

アンケート調査は平成30年度愛知県臨床検査精度管理調査に参加した141施設を対象とした。

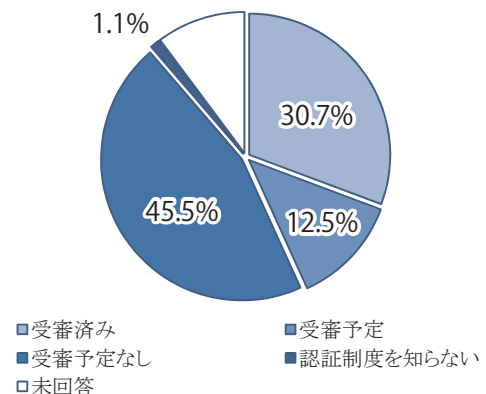
IV. 調査結果

1. 愛知県臨床検査精度管理全般

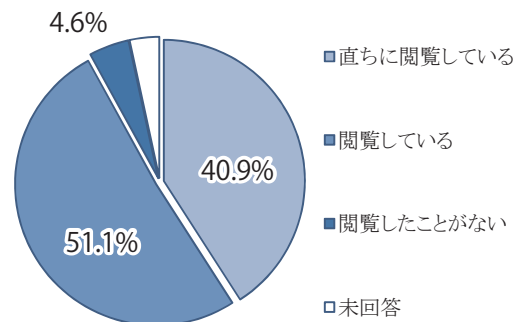
1) 他の外部精度管理調査との比較や調査内容を踏まえた本調査の参加費の妥当性について



2) 日臨技精度保証施設認証制度について



3) 愛知県臨床検査精度管理調査の総括統計表について

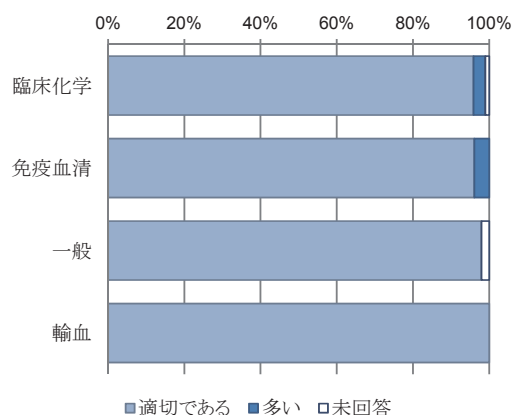


4) 精度管理事業全般に関する要望・意見について

- ・「JCCLS共用基準範囲」を採用するよう働きかけて欲しい。「日臨床精度保証施設認証制度」は認定範囲が曖昧である。
- ・微生物部門の菌名マスターはアルファベット順に並べて欲しい。
- ・日本医師会サーベイと実施時期が近すぎるため、キャリアプレーションの実施をふまえ、全く同時期にするか、1か月程度離していただけるとありがたい。
- ・月始めの検査は業務上厳しい(検体到着後2日間の測定には時間的に無理がある)。
- ・生理検査の動画は手引書と同時公開してほしい。
- ・フォトサーベイの入力はマスターの番号で出来るようにしてほしい。該当項目をスクロールで探すのは大変で、入力間違いを起こしやすい。

2. サンプルサーベイ部門

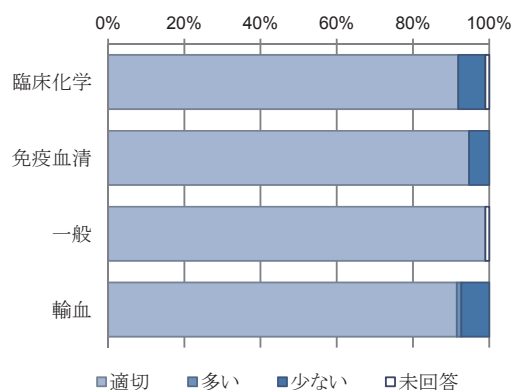
1) 測定項目数について



	適切	多い	少ない	未回答
臨床化学	95.9	3.1	0.0	1.0
免疫血清	96.1	3.9	0.0	0.0
一般	98.0	0.0	0.0	2.0
輸血	100.0	0.0	0.0	0.0

内訳(%)

2) 試料の量について



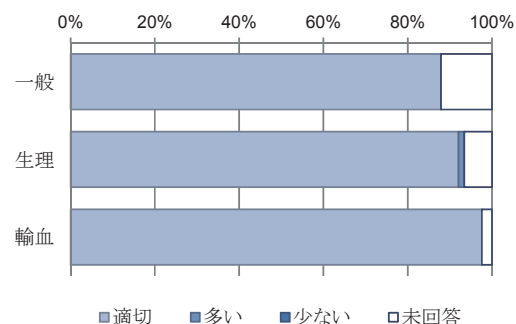
■適切 ■多い ■少ない □未回答

	適切	多い	少ない	未回答
臨床化学	91.8	0.0	7.1	1.0
免疫血清	94.7	0.0	5.3	0.0
一般	99.0	0.0	0.0	1.0
輸血	91.5	1.2	7.3	0.0

内訳(%)

3. フォトサーベイ部門

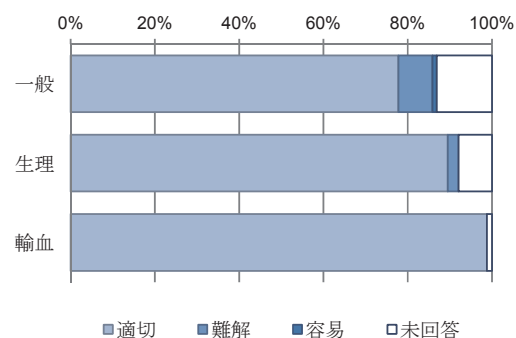
1) 設問の量について



	適切	多い	少ない	未回答
一般	87.9	0.0	0.0	12.1
生理	92.1	1.3	0.0	6.6
輸血	97.6	0.0	0.0	2.4

内訳(%)

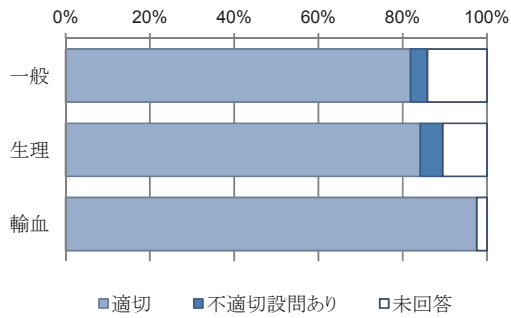
2) 設問の難易度について



	適切	難解	容易	未回答
一般	77.8	8.1	1.0	13.1
生理	89.5	2.6	0.0	7.9
輸血	98.8	0.0	0.0	1.2

内訳(%)

3) 設問の内容について

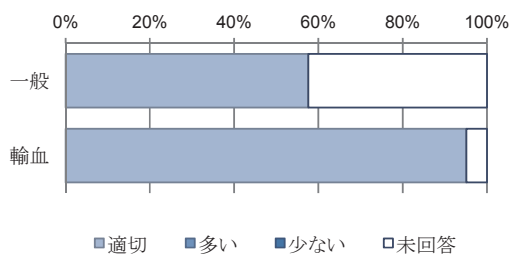


	適切	不適切設問あり	未回答
一般	81.8	4.0	14.1
生理	84.2	5.3	10.5
輸血	97.6	0.0	2.4

内訳(%)

4. 評価対象外設問

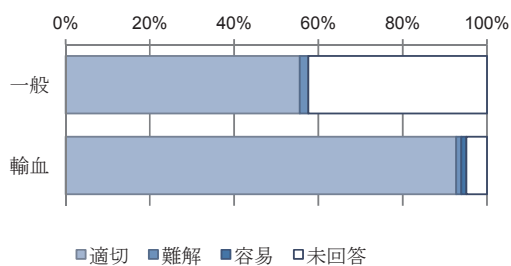
1) 設問の量について



	適切	多い	少ない	未回答
一般	57.6	0.0	0.0	42.4
輸血	95.1	0.0	0.0	4.9

内訳(%)

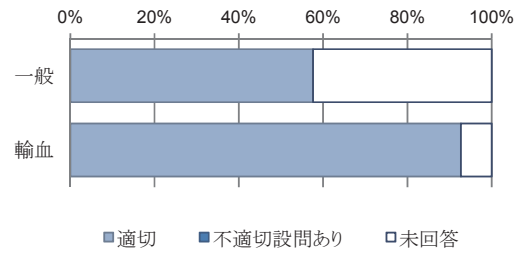
2) 設問の難易度について



	適切	難解	容易	未回答
一般	55.6	2.0	0.0	42.4
輸血	92.7	1.2	1.2	4.9

内訳(%)

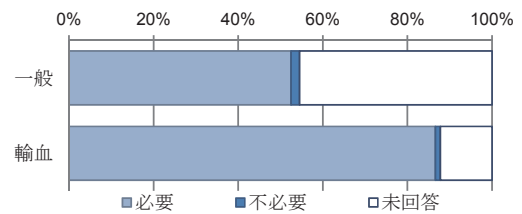
3) 設問の内容について



	適切	不適切設問あり	未回答
一般	57.6	0.0	42.4
輸血	92.7	0.0	7.3

内訳(%)

4) 評価対象外設問の必要性について

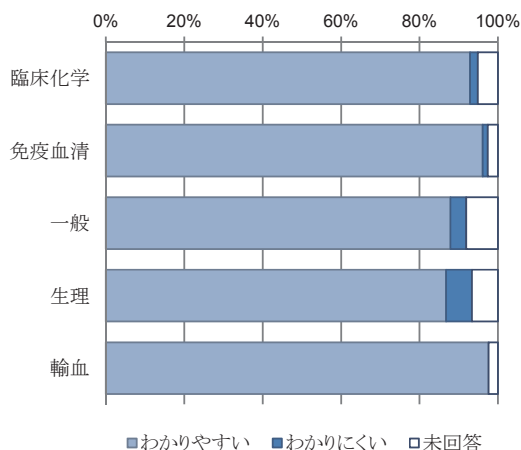


	必要である	不必要である	未回答
一般	52.5	2.0	45.5
輸血	86.6	1.2	12.2

内訳(%)

5. JAMTQCシステム

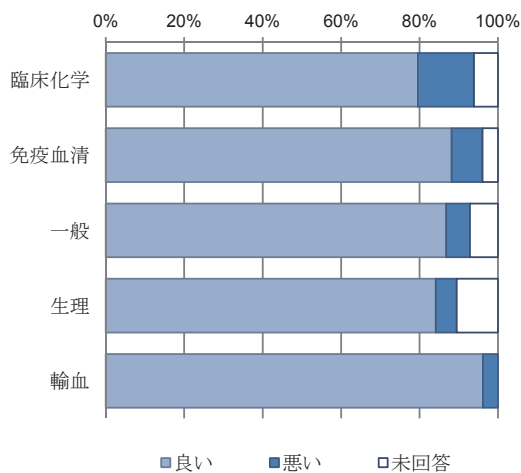
1) システムの使用方法について



	わかりやすい	わかりにくい	未回答
臨床化学	92.9	2.0	5.1
免疫血清	96.1	1.3	2.6
一般	87.9	4.0	8.1
生理	86.8	6.6	6.6
輸血	97.6	0.0	2.4

内訳(%)

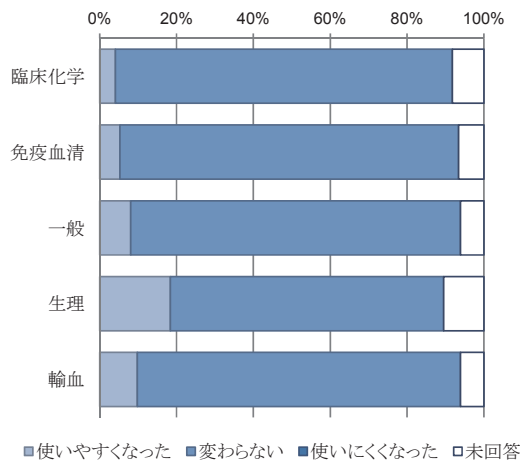
2) システムの操作性について



	良い	悪い	未回答
臨床化学	79.6	14.3	6.1
免疫血清	88.2	7.9	3.9
一般	86.9	6.1	7.1
生理	84.2	5.3	10.5
輸血	96.3	3.8	0.0

内訳(%)

3) 昨年と比較した本年度システムの使いやすさ



	使いやすくなった	変わらない	使いにくくなった	未回答
臨床化学	4.1	87.8	0.0	8.2
免疫血清	5.3	88.2	0.0	6.6
一般	8.1	85.9	0.0	6.1
生理	18.4	71.1	0.0	10.5
輸血	9.8	84.1	0.0	6.1

内訳(%)

V. 解説および考察

今年度も多くの参加施設に各種アンケートに協力して頂いた。今回実施したアンケートの集計結果から、以下の通り総括した。

1. 他の外部精度管理調査との比較や調査内容を踏まえた本調査の参加費の妥当性は、86.4%の施設が妥当、4.5%の施設が安いと回答した。高いとの回答は8.0%で昨年と同程度の割合であった。精度管理事業部としては、今後も参加費に見合う調査実施に努めていきたい。

2. 日臨技精度保証施設認証制度は、30.7%の施設が認証受審済み、12.5%の施設が受審予定、45.5%の施設が受審の予定はない、1.1%の施設が認証制度を知らないと回答があった。精度が十分保証されている施設を増やすため、受審施設の増加が次年度以降の課題であると考ええる。

3. 愛知県臨床検査精度管理調査の総括統計表は、92.0%の施設が公開メール受信後、直ちに閲覧、または、閲覧していると回答があった。次年度以降も公開メール配信を継続し周知を徹底していきたい。

4. サンプルサーベイ部門では、測定項目数、試料の量についてアンケートを実施した。

1) 測定項目数について

各部門95%以上の施設が適切と回答しており、臨床化学部門の3.1%、免疫血清部門の3.9%の施設から多いと回答があった。また、少ないと回答した施設はなかった。

2) 試料の量について

各部門90%以上の施設から適切と回答があった。少ないと回答した割合は臨床化学部門の7.1%、免疫血清部門の5.3%、輸血部門の7.3%で、輸血部門では昨年度の13.9%から改善がみられた。多いとの回答は輸血部門の1.2%のみであった。

5. フォトサーベイ部門では、設問の量、設問の難易度、設問の内容についてアンケートを実施した

1) 設問の量について

生理部門の1.3%の施設から多いと回答があったが、他の部門では多い、または少ないと回答した施設はなかった。

2) 設問の難易度について

輸血部門では98.8%の施設が適切と回答し、難解、または容易との回答はなかったが、一般部門の8.1%、生理部門の2.6%の施設からは難解と回答があった。容易との回答は一般部門の1.0%のみであった。

3) 設問の内容について

各部門80%以上の施設から適切と回答があった。生理部門の5.3%、一般部門の4.0%の施設からは不適切だと感じた項目があると回答があったが、生理部門では昨年度の10.5%から改善がみられた。輸血部門では不適切だと感じた項目があると回答した施設はなかった。

6. 評価対象外設問では、設問の量、設問の難易度、設問の内容、評価対象外設問の必要性についてアンケートを実施した。

1) 設問の量について

各部門、多い、または少ないと回答した施設はなかった。

2) 設問の難易度について

適切と回答した割合は各部門、昨年度と同程度であった。一般部門の2.0%、輸血部門の1.2%の施設からは難解と回答があった。

3) 設問の内容について

不適切だと感じた項目があると回答した施設はなかった。

4) 評価対象外設問の必要性について

不必要であると回答したのは、一般部門の2.0%、輸血部門1.2%であり、輸血部門では86.6%が必要であるとの回答だった。

7. JAMTQCシステムでは、システムの使用方法、操作性、昨年と比較した本年度システムの使いやすさについてアンケートを実施した

1) システムの使用方法について

各部門85%以上の施設がわかりやすいと回答していた。わかりにくいと回答したのは生理部門の6.6%、その他の部門は5%以下であった。

2) システムの操作性について

免疫血清、輸血、生理、病理、細胞部門の90%以上の施設から操作性は良いと回答があった。操作性が悪いと回答したのは各部門10%以下であった。

3) 昨年と比較した本年度システムの使いやすさ

生理部門の18.4%から使いやすくなったと回答があり、使いにくくなったと回答した施設はなかった。

VI. まとめ

例年同様の内容でアンケート調査を実施しているが、集計結果より精度管理事業部の運営に大きな問題はないと考える。

今年度は手探りの状態の中、全国に先駆けて日臨技サーベイ結果相談会を開催し、様々なご意見を頂いた。今後も参加施設の皆さまに対するサポート体制の充実に焦点を当て、新たな取り組みも積極的に展開していきたいと考えている。

今回アンケート調査で頂いたご意見は真摯に受け止め、来年度の検討課題とし、より質の高い精度管理調査の実施に向けて取り組んでいく所存である。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。

VI. 実務担当者

精度管理事業部長：

○菊地 良介（名古屋大学医学部附属病院）

精度管理事業部事務局員：

○齊藤 翠（藤田医科大学病院）

○寺田 達夫（愛知医科大学病院）

○西谷由美子（総合大雄会病院）

○鈴木 敦夫（名古屋大学医学部附属病院）